

「川御座船」パレードによる淀川の舟運文化再生

水都大阪を考える会（水都の会）

■活動内容

韓国で復元された江戸時代の朝鮮通信使船来阪に対し、当会が歓迎会その他受入れ事業を実施した。さらに、淀川区、枚方市、京都府・市の淀川沿川各自治体との連携プロジェクトとして、江戸時代同様に、京都まで通信使船関係者を乗せた「川御座船」の淀川遡上を再現。淀川の水運文化再生を図る起爆剤とした。

■コンセプト・ねらい

古代から大阪と京都を結び、歴史と文化に溢れ、日本経済の大動脈であった淀川の舟運だが、鉄道の普及で廃れ、江戸時代 150 隻もの船団を組み朝鮮通信使が辿った川御座船の華麗な史実も忘れられた。

大阪・関西万博の会期中に江戸時代の朝鮮通信使が行った淀川での川御座船パレードを再現するという、世界が注目する国際的なイベントを実施することで、淀川大堰開門完成で復活なった淀川クルーズ及び忘れられた淀川の舟運文化の再生を広く世界に発信する。

■活動実績

韓国で復元された江戸時代の朝鮮通信使船の来阪に合わせ、以下の活動を実施

- ①朝鮮通信使船来阪受入れ事前調整 出迎え・係留桟橋の調整等の交渉
- ②朝鮮通信使船来航記念特別パネル展[於：御堂ギャラリー]川御座船の世界遺産の絵画パネル・川御座船の絵本、通信使船の写真パネル・映像等の展示
- ③朝鮮通信使船来航記念講演会[於：北御堂ホール]通信使と川御座船他
- ④「朝鮮通信使船来航歓迎会・朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会 合同晚餐会」[於：綿業会館ホール]大阪市副市長、韓国副総領事、韓国国立海洋遺産研究所長、釜山文化財団代表理事他列席・参加。日本の伝統芸能の公演も行う。
- ⑤通信使船船内見学会・船上公演、万博会場での朝鮮通信使行列の実施調整
- ⑥淀川河口の十三から京都・伏見までの淀川「一気通貫」クルーズの第一号として、民間クルーズ船、大阪漁協の船などの後続船 3 隻と共に川船に通信使使節を乗せ、船内で淀川文化の語り部や大阪歴史博物館館長の朝鮮通信使の講演、更に朝鮮の伝統音楽・コーラス等の公演を行いながら航行。
- ⑦淀川区十三では淀川区による出発式、枚方では枚方市、枚方宿の方による寄港式、伏見では京都府・市による到着式などの交流セレモニーを実施。
- ⑧朝鮮通信使ゆかりの伏見の御香宮では、京都歓迎会を開催し、朝鮮通信使使節団と京都市長（局長代行）との間で国書・親書の交換を行った他、韓国伝統音楽・コーラスの披露を行うなど、交流を深めた。

■成果・効果

・大阪・関西万博の会場では、韓国のナショナルデーに合わせ朝鮮通信使船で来日した使節が朝鮮通信使行列を行ったが、当会が主催することになった通信使船歓迎晚餐会には大阪市副市長や韓国総領事館等関係者とともにも多数参列した。



- ・「朝鮮通信使船大阪・関西万博来港記念『淀川川御座船クルーズ』」と銘打った当会のクルーズには、十三港には淀川区長、枚方港には枚方市長、伏見港には京都府・市の局長や部長にお出迎えいただき「府県を越えて淀川上下流の自治体が大阪・関西万博を祝う初のイベント」を民間ながら当会が実施することとなった。
- ・昨年、淀川大堰開門をくぐった9隻の船うち、4隻は当会のクルーズであり、しかも、世界の注目する万博開催期間中に伏見まで到達した民間の船は当会だけであった。完全に完成できていなかったことが原因とはいえ、多くの民間舟運業者が消極的な中、当会の活動により先駆的な試みの端緒を開けた。
- ・当会のクルーズは大阪・関西万博に合わせて完成した十三港・淀川大堰開門・京都伏見港の今後の利用促進に向けたそれぞれの完成記念イベントともなった。
- ・江戸時代、朝鮮通信使が淀川を川御座船で往来する際、歌水主（うたかこ）と呼ばれるプロの歌手兼水主が幕府の定めた儀礼歌「御船歌」を歌い、操船した。その際、通信使の中の楽隊が伴奏し、当時としては希有な国際的なハーモニーが淀川に響き渡った。御船歌のメロディは完全に失われた（歌詞は残っている）が、四国や東北など遠隔地の神社の祭礼などの中で変化しつつも生き残っていたものを、当会が復元し、歓迎会で斉唱するなど、失われた淀川の文化再生に努めた。
- ・朝鮮通信使との国際交流の関係では、文禄慶長の役の後、徳川家康と朝鮮の僧サミョンデサが伏見で会見し、その後250年以上にもわたる平和の礎を築いた。

この会見で朝鮮通信使も生まれたが、伏見でもこの事実は殆ど知られておらず、420周年の昨年、伏見で国書・親書の交換ができたのは、非常に興味深い。

■今後の展開

淀川大堰開門により淀川上下流の航行が可能となったが、巨費を投じた淀川大堰開門の利用促進や京都までの舟運の促進は行政が自ら対応しにくく、民間事業者も未だ関心が低く、需要や採算性が見込めず尻込みする中で、利用促進の起爆剤とすべく当会が日韓の国際的なスキームを構築し、資金を集め実施にこぎ着けた。今後は、欧州のライン川下りにも匹敵する観光コンテンツとなることをめざし、運行中のエンターテイメントや歴史の説明などの内容を充実させていく。（因みに今回の音楽公演や沿川説明などは今後の観光クルーズの本格実施時におけるたたき台となるものを目指した。）

当会の船の後続船として一緒に淀川大堰開門を通った下流の大阪市漁協等の船と上流の枚方港などの間で従来考えられなかった上下流交流の端緒ができた。

一方、多数の船を従えて淀川を遡上しようとの当初のもくろみは、大堰開門が整備途上で、電子制御での開閉ができず8人がかりの人海戦術で開閉してもらったこともあり、今回は同時に開門内に入った4隻だけの航行となり、パレードというには寂しい結果となった。電子制御ができるようになった暁には、多数の船とともに、京都に遡上するとともに、淀川の上下流の交流を活性化させたい。



朝鮮通信使船大阪・関西万博来航記念
淀川川御座船クルーズ 大阪～京都歓迎会

次 第

と き 2025年5月14日
と ころ 御堂江参集艇

司 会 京都市立芸術大学名誉教授 藤本英子

○韓国伝統音楽演奏（金一正韓室伝統音楽院）

・開会挨拶（水都大阪を考える会代表 藤井 薫）

・京都歓迎挨拶（京都府総合政策推進部長 岡本孝徳）

・韓国贈答礼挨拶（韓国海洋遺産研究所長 李恩碩）

・演劇・和書文楽（韓国側：朝鮮通信使学会会長 朴花珍、京都側：京都市総合企画局長 安田真也）

・記念品の交換（韓国側：韓国海洋遺産研究所長 李恩碩、京都側：京都市総合企画局長 安田真也）

○韓国民間船の会席（オモニークラス）

・閉会の辞（水都大阪を考える会代表 藤井 薫）

このリーフレットは以下の団体の協力を得て作成しています
公益財団法人河川財団、公益財団法人京阪文化財団、一般社団法人京畿建設協会

水都の会朝鮮通信使船来航歓迎プロジェクト

●5月11日

○通信使船の出迎え、見送り(南港 ATC 岸壁)
261年ぶりに朝鮮通信使船が大阪に来航。
入港式の前です、関係者だけのお迎えとなりました。



●12日

○朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会大阪大会
(北御堂ホール)

今年で最後となったソウルから東京まで朝鮮通信使の軌跡を徒歩で辿る「21世紀の朝鮮通信使友情ウォーク」の報告などがありました。



北御堂（通信使宿館）での全国大会

○通信使船来航記念講演会（北御堂ホール）
[講演①朝鮮通信使と淀川の川御座船の旅 ー藤井]
[講演②朝鮮通信使にとっての大阪ー大澤館長]



○朝鮮通信使船来航記念特別パネル展
[朝鮮通信使と船]（北御堂 御堂ギャラリー）

○通信使船来航記念歓迎会・朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会合同晩餐会（綿業会館）
[来賓：韓国副総領事、韓国国立海洋遺産研究所所長
釜山文化財団代表理事、大阪市副市長他挨拶]

縁地連に大阪市が加盟していない事もあり、民間団体ではありますが、当会が実行委員会を組織し、歓迎会等の主催をすることになりました。
失われた御船歌を復活させました



無事、歓迎晩餐会も終了

●13日

○通信使船入港式(南港 ATC 岸壁)
入港式は、大阪港湾局の主催で賑々しく執り行われました。

○船内見学会



○朝鮮通信使行列（大阪・関西万博会場）

船内見学会の後、万博会場に移動し、通信使行列を実施。
楽隊の演奏とともに、来場者の盛大な歓声を受けて行進しました。

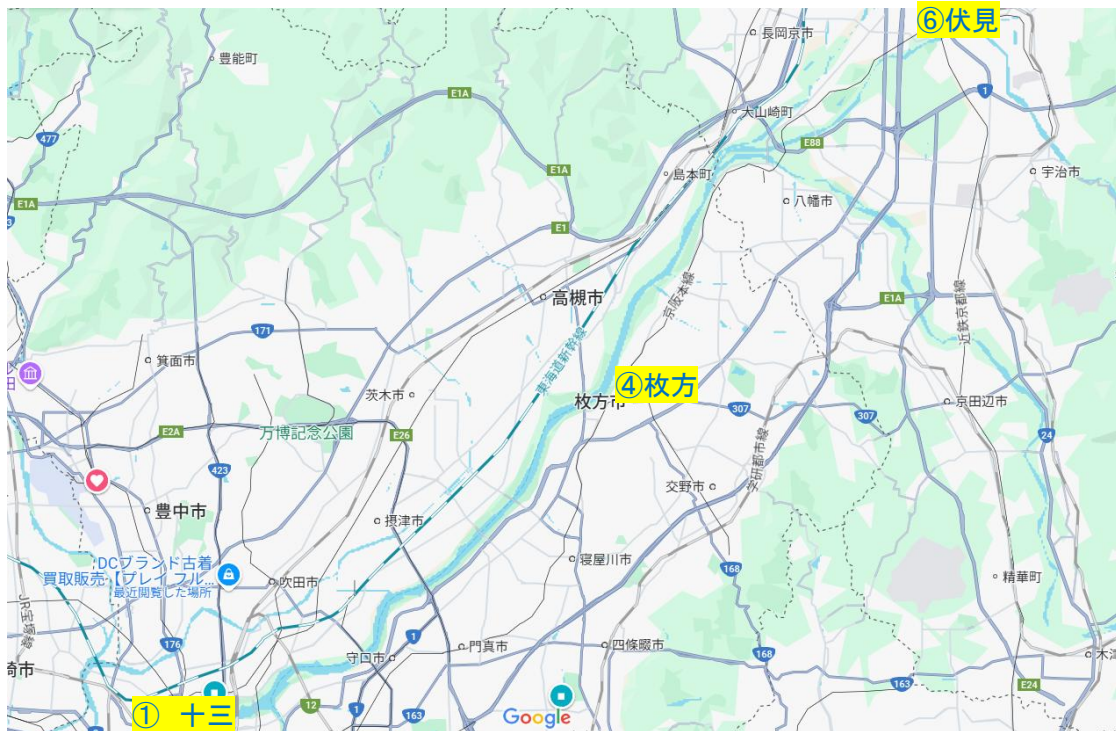


大阪・関西万博韓国ナショナルデー通信使行列



水都の会淀川川御座船プロジェクト

■2025年5月14日（水） 淀川川御座船クルーズ



①午前9時淀川十三港を出港

江戸時代以来の「日韓の交流の再現・顕彰」のため5月14日9時に十三港を出航しました。古川吉隆淀川区長より、歓迎・お見送りのご挨拶をいただいた後、韓国国立海洋遺産研究所



十三での出発式



出航

古川淀川区長・李恩碩所長の挨拶

李恩碩所長より、出発の挨拶をいただきました。日韓交流のため多額の費用を投じ、朝鮮通信使船を復元・来阪する隣国の訪問団への最大の「おもてなし」は、新たな閘門を活用した往時を彷彿させる「川御座船」に見立てたクルーズの再現に他なりません。

この河口から伏見までの淀川『一気通貫』航行は、記念すべき民間のクルーズ船「第一号」ととなりました。

②午前9時半淀川大堰閘門をくぐる

淀川大堰により淀川の上・下流の交流が途絶えていましたが、万博の開幕にあわせた大堰閘門の完成で行き来できるようになりました。しかし、電子制御による運用がまだですので、淀川河川事務所にお願ひし、8人がかりで開けてもらいました。

何度も開閉をお願いできないので、往時の150隻には及びもつきませんが「川御座船」と先導船、プレジャーボート並びに大阪市漁協の船の4隻が列をなして大堰閘門をくぐり、淀川上流部に抜けます。将来は獲れたての大阪湾の魚を携え、大阪市漁協の船が、颯爽と枚方港で開催される朝市に登場！などということも可能かもしれません。今後の交流を見据えた今回の経験が、大阪市漁協や枚方市民等との淀川「下流部と上流部との交流」に発展することを期待します。



淀川大堰閘門をくぐる後続船

③船内での案内・解説

淀川の周囲の歴史的景観や川御座船が行った150隻もの船団によるパレードの様子などの歴史解説を行っていただき、華やかだった往時の川御座船を追体験してもらいます。(講師は大阪歴史博物館大澤研一館長、「淀川の語り部」松永正光さんのダブルキャスト)



大澤館長（左）と「語り部」松永さん（右から2人目）

④11時30分枚方港に到着

枚方市の伏見市長他、枚方宿の皆様にお出迎えいただきました。並行して運航しているバスに乗りしていた参加者と到着した船に乗っていた乗客が入れ替わり、伏見に向かいます。枚方港では、オモニ・コーラスの皆さんより、枚方の皆様の歓迎に対するお礼の歌を斉唱していただきました。



枚方市のお出迎え



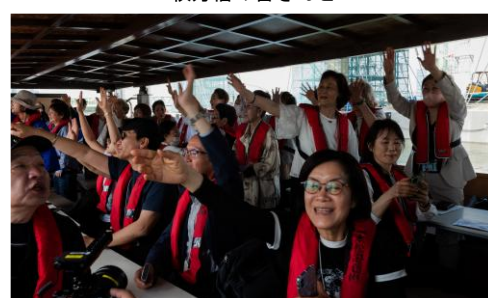
伏見枚方市長のご挨拶



オモニ・コーラス



枚方宿の皆さんと



⑤ 船内のエンターテイメント

- 参加された方には、韓国の歌謡（オモニ・コーラス）や伝統音楽（韓国伝統芸術院）が演奏を行いました。
- 韓国国立海洋遺産研究所の李恩碩所長からも歌を披露していただきました。
- 元観光庁長官で現在大阪観光局の溝畑宏理事長にも駆けつけていただきました。
- 今後、環境面にも配慮した淀川におけるモーダルシフトを目指すためには、まずは淀川水運がより身近なものとなる観光クルーズから始めてはどうかと思います。そのためには船内のエンタメを充実させ、国内のみならずインバウンド需要をも取り込める魅力的なコンテンツとする必要があります。今回のクルーズはそのテストケースと位置づけられます。



海洋遺産研究所李恩碩所長



大阪観光局溝畑宏理事長（右）

⑥午後 3 時伏見港に到着。

京都府・京都市、伏見区の皆様にお出迎えいただきました。

伏見港から京都歓迎会にて国書・親書交換式を実施するため、御香宮にバスで移動しました。

万博会場で朝鮮通信使行列を実施した一連のイベントは、十三港では淀川区長、枚方港には枚方市長、伏見港には、京都府や京都市の万博担当の部長や課長にお出迎えいただき、「淀川上下流の自治体が一体」となるとともに大阪・関西万博を祝う初のイベント」ともなりました。



伏見港歓迎式

⑦午後 3 時 30 分 御香宮で国書・親書の交換

朝鮮通信使が来日した際に行った国書の交換は大阪では行われたことがなく、殆ど江戸（東京）で行われました。例外的に 2 回目の通信使による国書の交換が伏見城において行われました。

今回、かつて朝鮮通信使もくぐったその伏見城の大手門が移築された由緒ある京都伏見の御香宮にて、京都府総合政策環境部の岡本部長より歓迎の挨拶をいただいた後、韓国側（海洋遺産研究所の李恩碩所長）と京都市との間で、記念品の交換を行うとともに、韓国派遣団代表（韓国朝鮮通信使学会朴花珍会長）と京都市長（総合企画局安田政策推進局長）により国書・親書の交換式が行われました。



京都

江戸時代、京都の伏見城で韓国の僧「サミョンデサ」と徳川家康が会見し、文禄慶長の役の後の国交回復の合意がなされてから 420 周年。もう一つの「国交正常化」が後に朝鮮通信使を生み、200 年以上もの間の両国の友好交流の礎となります。

ともすれば短期間に関係悪化・改善を繰り返す現在、歴史に埋もれたこの貴重な史実を日韓国交回復 60 周年の今年に広く知らしめ、両国の親善を図りたいと思います。



記念品の交換



京都府岡本部長歓迎挨拶



国書・親書の交換



交換式記念写真

